

平成 29 年 5 月 26 日現在

機関番号：32661

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26463258

研究課題名(和文)冠動脈疾患患者のメンタルヘルスを支援する看護師教育プログラムの評価

研究課題名(英文)Evaluation of a Nursing Education Program that Supports Coronary Artery Disease Patients' mental health

研究代表者

山田 緑(YAMADA, Midori)

東邦大学・看護学部・准教授

研究者番号：00339772

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、冠動脈疾患患者のメンタルヘルスを支援する看護師教育プログラムを開発しその評価を行った。まず、文献レビューを行い、教育プログラムに必要な内容および要素の抽出を行った。次に、病棟で働く看護師を対象に質問紙調査を実施し、冠動脈疾患患者へのサポートの実際と看護師の認識について明らかにした。その結果をもとに教育プログラムを作成し、このプログラムを臨床現場の看護師を対象に実施し、プログラムの妥当性・実用性について検討した。

研究成果の概要(英文)：The objective of this study was to evaluate of a nursing education program that supports coronary artery disease patients' mental health. First, education program's contents and elements were identified through literature review. Second, a postal survey of nurse working in acute care hospital was conducted using questionnaires of mental supports and perceptions for coronary artery disease patients. Finally, the intervention research using a nursing education program was implemented for hospital nurse, and was examined validity and feasibility.

研究分野：臨床看護学

キーワード：看護師教育プログラム 冠動脈疾患患者 メンタルヘルス

1. 研究開始当初の背景

心疾患は、わが国において全死亡の15.8%を占め、がんに次いで死因の第2位となっている。医療技術の進歩によって、心疾患患者の救命率及び予後は改善しているが、急性期治療を終えたからといって疾患が完治したわけではなく、リスクファクターによって再発や合併症を引き起こす可能性がある。冠動脈疾患患者の死亡率や疾病の増悪は、身体的要因だけでなく、心理・社会的な要因や患者の行動パターンと深く関連し、回復過程を阻害するだけでなく患者のQOLや予後にも影響を与える。

国内においては、1996年に厚生省(当時)が提唱する心臓リハビリテーション・プログラムが臨床現場に導入され、特に運動療法は運動耐容能の改善、心不全の機能及び症状の改善などがみられることが科学的に実証されている。心臓リハビリテーションとは、患者の運動療法や食事療法、禁煙などの生活面や精神面などを多方面からサポートするものであるが、牧田(2007)の調査によると、臨床現場での医療者の活動内容は運動療法・運動指導が中心であり、ストレスコントロールの分野にはほとんど着手されていない。冠動脈疾患患者の心理的問題(抑うつ・不安、怒り・敵意、タイプD傾向など)に対して、医療者によるメンタルヘルス対策が急務である。

冠動脈疾患患者の心理的問題に関する教育プログラムの評価研究では、患者を対象として、抑うつ・不安、怒り・敵意、Distressなどを緩和し、ストレスの軽減ならびに精神的健康の向上を目指したさまざまなプログラムが試みられている。具体的な方法としては、講義形式、グループセッション、教育認知療法、ビデオの使用などが報告されている。Lindenら(1996)は、無作為対象試験のメタアナリシスで、運動療法に心理的介入を加えたプログラムが、有意に不安や抑うつを低下させ、さらに死亡率や再発率も低下させたことを見出している。つまり、心臓リハビリテーション・プログラムにおいて、運動療法だけではなく心理的介入を組み合わせることが、冠動脈疾患の予防や再発防止への効果があることが分かっている。

しかし、わが国では、冠動脈疾患患者の身体的ケアに関する標準的な看護は確立されているものの、心理・社会的ケアに関する教育に関しては一般的なものとどまっている。冠動脈疾患患者における心理的問題は、疾患の発症や予後に関与することが明らかとなっており(Denolet & Conraads, 2011)。多くの看護師が、冠動脈疾患患者への基本的な看護を学び、心理的問題についても十分理解した上で、適切なメンタルヘルスケアを提供できることが望ましいと考える。冠動脈疾患患者への看護において重要なのは、二次予防のための正しい身体管理の知識や技術を提供することはもとより、患者の心理・社会

的な側面にまで着目することである。このような看護を提供するためには、実際に患者の身近でケアを実践する看護師を対象に、冠動脈疾患患者のメンタルヘルス支援に関する教育を行うことが不可欠であると考えられる。

2. 研究の目的

近年、冠動脈疾患患者の心理的問題が患者の健康に大きな影響を及ぼすことが明らかにされてきたが、その問題を解決するための援助に関する看護者への教育プログラムの開発と評価はほとんど行われていない。そこで本研究は、第1に、循環器看護に携わる看護師を対象とした教育プログラムの具体的実践に関する基礎調査を行い、冠動脈疾患患者のメンタルヘルスを支援する看護師の教育プログラムの内容・要素について分析を行った。第2に、臨床現場の看護師の認識について実態調査を行った。第3には、冠動脈疾患患者の心理的問題とメンタルヘルス対策に関する看護者への教育プログラムを開発し、介入研究を通して最終的に本プログラムの評価を行った。

3. 研究の方法

1) 文献レビュー

初年度は、循環器看護に携わる看護師を対象とした教育プログラムについて、文献検討の結果から、冠動脈疾患患者のメンタルヘルスを支援する看護者への教育プログラムにおける成果変数や測定時期について分析し、信頼性・妥当性の高い測定方法・測定用具を検討した。また、並行して、諸外国における無作為比較試験の最新動向調査を行った。

文献検索のデータベースとして、PubMed、CHINAHL、Cochrane Library、医学中央雑誌を用い、統合的文献レビューの結果から、冠動脈疾患患者のメンタルヘルス向上に関する教育プログラムの内容として含むべき学習項目に関する抽出を行った。

2) 質問紙法を用いた実態調査

首都圏の病院に勤務する看護師1,224名を対象に質問紙を配布し473名から回答を得た。質問紙の内容は、対象者の属性、冠動脈疾患患者に対する看護の実践頻度及び自信から構成された。調査の実施にあたっては、所属施設及び調査施設における倫理審査委員会の審査を受け承認を得た。

3) 介入研究

対照群を設置しない非無作為化前後比較デザインを用いた。対象者は首都圏の病院に勤務する看護師とした。プログラムは1日6.5時間で、集合研修形式とした。評価項目は、看護師の「知識」「態度」「技術」の3点とし、プログラム前、後、1か月後に質問紙調査を行った。知識及び態度得点は、反復測定分散分析を用いて球形性検定を行った。技術の実践頻度と自信に関してはFriedman検定を行った。各時点の変化は多重比較法を用いて検討した。分析には統計ソフトSPSS 24.0を用

い有意水準は 5%とした。調査は研究倫理審査委員会の承認を得て行った。ポスターにて募集を行い研究参加は対象者の自由意思を尊重した。質問紙は無記名にて郵送回収した。

4. 研究成果

1) 実態調査

対象者の看護師経験年数は 8.9 ± 6.5 年で、20~30代が 8割以上を占めていた。循環器病棟に勤務する看護師以外でも、冠動脈疾患患者を受け持つ頻度は 73.3%と高かった。冠動脈疾患患者の看護への興味・関心のある者が約 7割と多かったものの、半数以上の者が学習機会はないと回答した。日々の看護の中で、信頼性・妥当性のある評価手法を用いた患者アセスメントは実践頻度が少なく、かつ自信がないと答えた者が約 8割いた。看護の実践頻度と自信の間には相関が認められた。

看護師が、臨床現場で遭遇する冠動脈疾患患者の心理的状態をアセスメントし、信頼性・妥当性のある手法を用いて不安・抑うつなどを評価できるような教育プログラムの開発・実施が急務である。

2) 介入研究(教育プログラムの実施と評価)

プログラム参加者は 18名、看護師経験年数は 7.5 ± 6.9 年であった。知識得点は、前 7.8 ± 1.2 後 8.5 ± 0.6 1か月後 8.3 ± 1.5 で有意な変化が認められた ($p < .001$)。多重比較の結果、前-後 ($p = .001$)、前-1か月後 ($p = .001$)、後-1か月後 ($p = .032$) で有意差がみられた。技術の自信については、カウンセリング技法 7項目中 4項目で有意に変化した ($p < .05$)。

教育プログラムは、冠動脈疾患患者の心理的問題に関する看護師の知識を変化させ、冠動脈疾患患者の看護への自信を高めるのに効果的であった。また、これらの知識や自信はプログラム終了 1か月後も維持されていたことがわかった。

3) まとめ

心臓リハビリテーションは、運動療法を中心に、患者教育、カウンセリングなどから構成された包括的プログラムである。日本心臓リハビリテーション学会は、2000年に「心臓リハビリテーション指導士」という資格制度を認定しており、その養成カリキュラムで受講者は行動心理学や社会心理学、教育技術に関する学習を行っている。しかし、わが国では、心臓リハビリテーションを実施する医療施設が少なく、さらに、心臓リハビリテーション指導士に関しても、資格取得者が多い一方で実際に活動しているものの割合が少ないという問題点が生じている(牧田, 2007)。本研究も関連学会や研究会において、心臓リハビリテーションにおける運動療法や心理的アプローチに関する啓発や知識の普及活動を行っているが、その浸透度は十分でない。これまでのところ、冠動脈疾患患者の心理的問題やメンタルヘルスサポートに対する看護者への教育プログラムの開発、実施、

評価の研究は報告されていない。したがって、そのようなプログラムを検討し、プログラムの効果を明らかにすることによって、その有効性を示すことは、冠動脈疾患患者へのより良い看護を実現するために、効果的な教育プログラムの開発の一助となり、今後循環器看護分野のさらなる充実ならびに統合的な支援システムの構築に貢献するものと考えられる。

<引用文献>

Denollet J, Conraads VM (2011): Type D personality and vulnerability to adverse outcomes in heart disease, *Cleve Clin J Med*, 78 Suppl, 13-19.

Linden W, Stossel C, Maurice J (1996): Psychosocial interventions for patients with coronary artery disease: a meta-analysis, *Arch Intern Med*, 156(7), 745-752.

牧田茂 (2007): 心リハ医療の質的向上と社会貢献心臓リハビリテーション指導士認定制度委員会の立場より, *心臓リハビリテーション*, 12(1), 29-31.

山田緑・池亀俊美・北島泰子 (2012): 維持期にある心臓リハビリテーション患者の継続的支援に関する文献レビュー, *臨床看護*, 38(2), 255-257.

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 4件)

平中宣吉、山田緑、水野由美子、金本優、小野裕子、佐々木由紀、心臓血管外科手術を受けた高齢者の心臓リハビリテーション・プログラムの達成度とその関連要因について、*東邦看護学会誌*、査読有、13巻、2016、1-6

DOI : 10.14994/tohokango.13.1

大場薫、佐々木由紀、長能みゆき、工藤智佳子、大城みゆき、岸野信代、小林敏子、奥谷佐智子、増淵孝子、屋良千鶴子、原田恭子、山田緑、タイムスタディによる看護業務量調査、*東邦看護学会誌*、査読有、13巻、2016、15-22

DOI : 10.14994/tohokango.13.15

山田緑、池亀俊美、長山雅俊、伊東春樹、片桐敬、維持期心臓リハビリテーションにおける運動支援プログラムの実施と評価、*心臓リハビリテーション*、査読有、20巻1号、2015、233-237

<http://mol.medicalonline.jp/library/journal/download?GoodsID=dq1careh/2015/002001/038&name=0233-0237j&UserID=202.16.221.124>

山田緑、佐々木由紀、金子藍、原英彦、虚血性心疾患患者の二次予防を目指した介入プログラムの効果、*東邦看護学会誌*、

査読有、12 巻、2015、1-5
<http://rep.toho-u.ac.jp/modules/xoops/detail.php?id=10681668>

〔学会発表〕(計 3 件)

山田緑, 田所駿一, 田所千紗都, 窪田美由紀: 冠動脈疾患患者のメンタルヘルスを支援する看護師教育プログラムの検討, 第 81 回日本循環器学会学術集会, 2017.3.19. ホテル日航金沢(石川県金沢市)

山田緑, 佐藤健, 田中沙希, 佐藤尚美, 森本健史, 今井宏美, 岩波裕治, 福田大空, 内昌之, 海老原覚: 東邦大学医療センター大森病院における心臓リハビリテーションチームのあゆみ, 第 16 回東邦看護学会学術集会, 2016.12.17. 東邦大学(東京都大田区)

佐藤健, 山田緑, 田中沙希, 佐藤尚美, 森本健史, 今井宏美: 心臓リハビリテーションチームにおける退院指導パンフレットの開発と評価, 第 47 回日本看護学会(慢性期看護)学術集会, 2016.11.11. 米子コンベンションセンター(鳥取県米子市)

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計 0 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等
東邦大学看護学部ホームページ(研究室・教員紹介)
http://www.toho-u.ac.jp/nurs/lab/adult_health_nursing/yamada_midori.html

6. 研究組織

(1) 研究代表者

山田 緑(YAMADA, Midori)

東邦大学・看護学部・准教授
研究者番号: 00339772

(2) 研究分担者
該当者なし

(3) 連携研究者
該当者なし